ダンス教育におけるノンバーバルコミュニケーションの効果について

清村　泰佑　　（生涯スポーツ学科　　学校スポーツコース）
指導教員　柴田　俊和

キーワード：ノンバーバルコミュニケーション，ジェスチャー，見た目，ソーラン節

１．緒言

2012年度の4月から中学校のダンスが男女とも必修化された。その結果，ダンス指導に苦手意識を持った教員は多い．同時に生徒側にも「踊る」ことに対しての抵抗と不安が募っている．何とか羞恥心を解消するための指導方法はないだろうかという疑問に悩まされた．しかし，ダンスとは身体を使い，自己表現をするものである．自己表現とは身振り手振りで動かしたり，表情を変えたりなどと、情報を相手に伝えるための手段として用いている．

そこで本研究では，先行研究をもとにしながらダンス指導においてのノンバーバルコミュニケーションの効果，重要性について調査していく．問題点として，教師と生徒間のメッセージのやり取りに注目する．指導者の「見た目」から発信される非言語情報の影響力を見出す.題材となるのは，現代的なリズムのダンスからソーラン節である．ノンバーバルコミュニケーションが今後のダンス指導方法に欠かせない要素の一つだと結論付けたい．

２．研究方法

調査対象は本学の学生13人.ダンス経験の無い者を選出した.この13人にはソーラン節を踊ってもらう．まず，全体のうち8人をノンバーバルのみ，バーバル（言葉のみ）の指導のグループに分ける．ノンバーバルの指導に関してはそれぞれの指導効果，指導に足りない要素を見出す．バーバルも同様に行う．足りなかったものと，得ることのできた効果をはっきりさせる．残りの5人に2つの指導から導き出された効果を用いて実証し，ノンバーバルコミュニケーションの重要性を証明する．

３．結果と考察

実験の結果及びその考察から，ノンバーバルのみとバーバルのみの指導において，どちらが欠けても「伝わりきらない」「足りない」部分は存在する.ノンバーバルの表現しようとする時に生じる，スローペースな動きが一つ．ノンバーバルの指導では動きにキレは無いものの，被験者一人一人が思い思いの表現を重視していたためスローペースの動きになった．この指導では観ている人に何をしているのか，伝えることを重視している．沖揚げの情景イメージと「沖揚げ音頭」の理解が功を奏した．

もう一つはバーバルではっきりと伝わるキレのある動きである．バーバルの指導では，見本やジェスチャーなしの指導により振り付けから振り付けに移り変わるときの繋ぎ目が無い．次の絵から次の絵へと移り変わる紙芝居のような作品となった．

以上の2つに注力しながら第3グループにソーラン節をレクチャーしたところ，通常よりも「伝える」ことに長けた作品に仕上がった．ノンバーバルの指導特有のスローな動きが目立っていた．

４．まとめ

3つのグループの実験結果，考察から，指導者の「見た目」への注目を強制する状態作り，振り付けの動きをジェスチャー化することにより,「羞恥心の軽減」,「ダンスに対してのやる気のベクトルを傾けられる」という相乗効果が発見できた．

この研究を通して、現代のコミュニケーションの媒体として言葉は必要不可欠ではあるが，相手の態度や意欲，雰囲気という非言語情報を感じるからこそ情報をスムーズに処理し，発信しやすくなると明らかになった．

引用・参考文献

1. デズモンド・モリス著　藤田統訳（2007）マンウォッチング,小学館部文庫,pp. 24-26,pp28-29,p64.
2. 菊池由見子(2012)「中学校ダンス指導のコツ」，ナツメ社，pp. 120-125.
3. マジョリー・F・ヴァーガス（1987）非言語コミュニケーション，新潮文庫，pp. 15-16，p19.